



みんなでダンス！気持ちいい！（六名小）

# かいほつ

## 54号

題字 六ツ美西部小学校

5年 奥田 隼敏

岡崎市現職研修委員会  
特別支援教育部会  
(特殊学級担当者部会)  
平成18年3月3日 発行



### S子さんからの年賀状

甲山中学校長

鈴木由郎

平成十八年元旦。今年も、S子さんからの待望の年賀状が届いた。

S子さんは、養護学校の高等部在学中に手紙の書き方を覚え、それ以後、年賀状を二十年間欠かすことなく書き続けている。今年の年賀状には、「明けまして おめでとう ございます。ことしも、よろしく おねがいします。元旦」という文章と「帽子をかぶった戌の絵」と「自分の氏名」が、鉛筆で丁寧に書かれていた。

この年賀状は、私にとって特別なものとなった。そして、驚きと喜びが同時にこみ上げてきた。それは、書かれていた文章にも絵にも、どこにも下書きがみつからなかったからである。昨年までの年賀状には、高等部の頃に書けるようになった自分の氏名を除き、必ず、文章や絵には母親が薄く書いた下書きがあり、S子さんはそれをなぞって書いていた。しかし、今年は二十年目にして初めて下書きに頼らず、自分一人の力で年賀状を書き上げたのである。

母の添え書きには、「体重六十kg」 過食でコロコロしている デブッ チョS子です」とあり、昨年までの「S子の気持ちがとても不安定で、なかなか笑顔がみられません」等々のコメントからは、随分変わっていた。

高等部の頃のS子さんは、話し言葉はよく身に付けたが、文字や文章を覚えて書くことには時間がかかる生徒であった。現在は、三十代半ばの女性となり、地元の作業所に通いながら、仲間や家族と力を合わせて「生活の質の向上」を目指している。

折しも、教育改革が全国で押し進められる中、軽度発達障害を含む障害のある幼児児童生徒のための「特別支援教育」の制度の在り方について、検討が進められている。この改革が、S子さんや障害のある多くの人々への追い風となり、本人も家族も堂々と胸を張って生きていける社会、本人も家族も心から日々の生活を楽しみ、幸せな人生を送ることが出来る社会が創造されることを願ってやまない。

子どもと親の集い

ブロック交流会

\*\*\*\*\*

矢作・矢作北ブロック

矢作東小保護者 小松 ひなみ

八月一日、矢作にある五つの小学校と二つの中学校の七校で交流会が行われました。わたしたち親子も矢作北中のブロック交流会に参加させて頂きました。午前中は体育館で、シッポ取り(ズボンに紐を付けて取り合う)ゲームと大玉送り等のゲームをして盛り上がりました。午後は、校庭で、ボールアートや水鉄砲等で子供たちが遊んでいる間に、矢作北中、矢作中の先生が進路の話をしてくださいました。他校の先生方と子供たちとの交流がで

き、よかったです。親子共に楽しい一日でした。これからも、是非交流会を続けていってほしいと思います。



お母さんと一緒にデカパンリレー

甲山ブロック

甲山中 三年 辻村 尚馬

十二月五日に根石小学校で甲山ブロック交流会がありました。最初にリズム体操をおどりました。ひよっこりひよたんじまの音楽に合わせておどりました。おもしろかったです。

次に、じゃんけん列車をやりました。じゃんけん列車でかったり負けたりしました。フーセンバレーをやりました。フーセンをみんなのほうにパチンとたたきました。しっぽをやりました。平野先生にも取られました。しっぽを取られてまたしっぽを後ろにつけました。おかしつりリレーをやりました。おいしいおかしが取れてよかったです。交流会は楽しかったです。

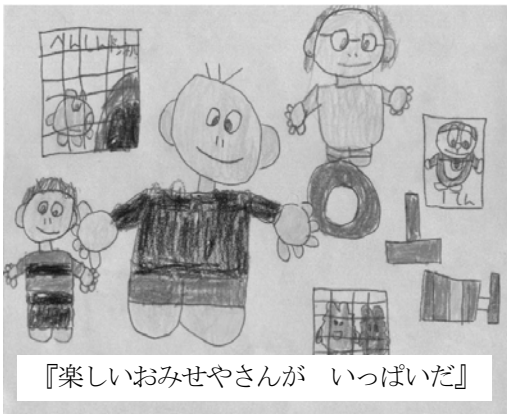
六ツ美・六ツ美北ブロック

六ツ美中 二年 村上 舞

私たちの学校は、六ツ美中部小と一緒に「パズル屋さん」をしました。

お店での私の係は、シールはりとお客さんに言葉を言うことです。初めはドキドキしたけれど、みんなが来たらさん張感がなくなりました。

私が大変だったところは、説明をするところです。理由は、きちんと話さないと小学校の子が分からないと思うからです。「シールをはったら好きなパズルを選んでね。」と言いました。したら、小学生の子が「うん。」と言いました。私の言ったことが伝わってよかったです。また小学生の子が楽しくやってくれてうれしかったです。



『楽しいおみせやさんが いっぱいだ』

(六ツ美西部小 6年 石川琢磨)

中学生の進路

進路希望先	男	女	計
進路希望先			
愛教大附属養護学校	1	1	2
安城養護学校	4	3	7
岡崎養護学校	1	0	1
豊川養護学校	1	0	1
大府養護学校	1	0	1
豊橋豊字校	1	0	1
豊田高等養護学校	5	1	6
半田養護桃花校舎	1	2	3
高校(定時制)	1	0	1
専修学校	4	3	7
春日台職業訓練校	1	0	1
就職その他	2	4	6
合計	23	15	38

(平成18年2月10日現在)

今年度の表彰

- ・第二十五回手作り学級新聞コンクール 銅賞 藤川小 三組
- ・MOA美術館岡崎児童作品展 佳作 六ツ美北小 古川 陸
- ・岡崎市読書感想画コンクール 教育委員会賞 大門小四年 都築 雅俊
- ・ゴミ減量ポスター 入選 竜海中一年 山本 和夫
- ・第四回キラキラとアートコンクール 優秀作品 さわやかで賞 南中三年 松本 悠輔
- ・全国書画展覧会 銅賞 南中三年 山下 かすみ
- ・第七十二回全国書画展覧会書の部 銀賞 甲山中二年 渡辺 孝祐
- ・CBC子ども音楽コンクール 優良賞 六ツ美中部小五年 石川 優一
- ・岡崎市理科作品展 入賞 東海中三年 大坪 航
- ・東海障害者水泳記録会 名古屋名東ライオンズクラブ賞 東海中三年 中川 大輔
- ・平成十七年度顕彰児童生徒 美川中三年 山口 由美子



# 学芸会

\*\*\*\*\*

## 有志のみんなとワイワイ

美合小学校

三組・四組は毎年、全校から有志を募集して、学芸会で発表をしています。今年はおむすびころりんをやることになり、二年生、三年生、五年生、六年生から二十二人も集まってくれました。さらに校長先生も…。ねずみ役としてみんな大活躍でした。圧巻は全員で踊った「マツケンサンバ」かな？

うれしいのは、各自の演技はもちろんですが、三・四組のみんながスムーズに動けるように、舞台の上でも袖でもしっかりフオローし てくれたこと です。おかげで三・四組のみんなのりのりで、会場から大きな拍手をもらいました。



## 交流を育む学芸会

連尺小学校



本校の学芸会は、交流クラスに参加する形態をとっています。学芸会では練習から発表までに多くの時間が費やされます。この時間は、交流の機会となります。

交流は、子供たちだけでなく、特殊学級の教師も指導や準備に参加します。こうした関係の中で、特殊学級の子供たちも安心して活動に参加できるようになります。車椅子で参加したJ君は、次のように日記を書きました。

『十一月二十二日』

ぼくは、おととい、学芸会をしました。ぼくたちは「きつねはだれだ」をやりました。ぼくはじろうの役をして、「ここにはこなかったよ」と、大きな声で言いました。さいこの歌を大きな声で歌いました。楽しかったです。ここ数年は、学芸会の後に「ありがとう交流会」を行い、みんなで焼きいもをすることが恒例になっています。

# 中学校からこんにちは

## 文化祭

竜海中学校

十一月十一日(金)・十二日(土)二日間の文化祭が行われました。一日目は、交流学級で合唱発表・鑑賞、文化講座に参加しました。二日目は、生徒会ステージを見ながら、「花・小物販売」活動を行いました。挨拶、品物の説明、袋に品物を入れる、合計値段のレジ打ちなど、お客様との対応を学びました。「ありがとう、ございました」と、自然体で言えた生徒たちの成長ぶりに頼もしさを感じました。



## 職場体験学習

矢作中学校

総合的な学習の一環として職場体験学習を行っています。乗馬クラブで馬小屋の掃除をはじめとする馬の世話を体験しました。はじめは大きな馬に驚きましたが、馬に話しかけたり、なでたりしていく中で恐怖心もなくなり、最後には乗馬もできるようになりました。挨拶の練習や交通機関を調べるなどの事前活動で自信をつけることができ、体験活動にスムーズに取り組むことができました。



# 特別支援学級の明日 元矢作北小学校長 兼平義文

一月八日は、休日でなければ毎年第三学期の始業式の日です。当日の朝日新聞第一面のトップの見出しは「特別学級『特別支援学級』で存続」でした。

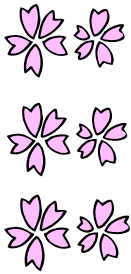
この分野と長い付き合いがあった者として、特別な感慨を持って読みました。

昨年(2019年)の二月、東京で「特別支援教育セミナー」があり参加しました。この分野の方向性を決める中央教育審議会の中心となつていらっしゃる方の講演を拝聴するためです。全国からの参加者は、ただ一つ、「特別学級の存続は？」のみを聞きたくて東京まで来たといつても過言ではありません。話は長々と続きましたが、雰囲気としてはとにかく「廃止」の方向であると理解しました。しかし話の終末は、断言するには時期尚早で、あと二カ月後には報告書が出るということでしたが、結果的には一年も後になりました。しかも「存続」という正反対の決定がなされました。これは特別学級存在の意義を強力に主張した保護者や関係者の熱意が認められた結果ではないでしょうか。個人的には安堵していますが、これで廃止論が消滅したとは到底考えられません。特

殊学級の存廃論議は唐突に出てきたわけではないのです。今後は、「特別支援学級は存続か廃止か」の論議にすりかわるだけかもしれません。

特別学級は通常学級に対する「特殊」であり、教育課程の差異を示します。障害児学級は、対象児の差異を示します。特別支援学級は、指導の中での支援活動の内容に「特別性」があるという前提に立つ学級です。通常学級に異なる様々な障害児に対しても「特別な支援」は施される昨今です。特別支援学級関係者は、個々の児童生徒について「A男への特別な支援は〇〇で、B子への特別な支援は〇〇です。」と、文書での保護者や社会に対する説明責任があります。この動向こそ特別学級廃止論者が最も注目し、再燃の根拠にしたいところではないかと思えてなりません。

廃止云々論が出たこと事態、障害児をとりまく教育の周辺が大きく変わろうとしている証拠です。以上、すべて蚯蚓(みみず)の戯れ言と理解してください。



# 卒業をひかえて

子 がんばった六年間  
北野小 井島 彩

わたしは、北野小学校をもうすぐ卒業します。学校で漢字の勉強をいっぱいしました。計算もがんばりました。四年生の時からバレー部に入ってがんばりました。六年生では修学旅行に行きました。友だちといっしょで楽しかったです。

わたしのめあては、泣いたり逃げたりせずにがんばることです。

中学生になったら、英語の勉強や部活動をがんばりたいです。友だちもいっしょに作りたいです。

親 小学校六年間  
北野小 井島 和子

娘は六年前、北野小学校に初めてきた特別学級に入学しました。親も子も不安の中でスタートした学校生活でした。いろいろな先生との出会いがあり、気づいてみると早いものでもう六年。娘も大きく成長することができました。

これから中学校には、自転車、高校になったら電車やバスに乗って通うことになります。一人で何でもできるようにお金を使い方、時間の使い方などたくさん勉強してほしいです。

子 高等部入学を目指して  
葵中 柴田 彩花

私は、中三になっていろいろなことを全力でがんばってきました。修学旅行では班長をやりました。後期は議員になってみんなに連絡や注意をしてクラスをまとめました。仲良し交流会では司会・進行をやりました。

いよいよ受験が近づくと、担任の先生と面接の練習をしました。練習のおかげで、本番では落ち着いて話せました。四月からは、附属養護学校に通います。これからも、何でもがんばっていこうと思います。

親 卒業を迎えて  
葵中 柴田 典子

この中学生活は、あつという間に過ぎてしまい、卒業を待つばかりです。

思えば入学式当日は、風の強い雨降り先不安を覚えたものです。親の気持ちと裏腹に、子供は中学生生活を部活と学習に一生懸命チャレンジし頑張ってくれました。制服が小さく感じられるのは体だけでなく心の成長もあつたことでしょう。先生、友達と楽しく過ごした三年間は、大きな宝物になることでしょう。卒業おめでとう。そしてこれからも頑張って歩いていこうね。